

第1回子ども・子育て会議 ご意見ご要望

	意見・要望	現 状
No.1	1. 異年齢混合保育の課題 園児数減少により小規模園では異年齢混合保育が当たり前になりつつあります。年齢ごとの保育が難しく、集団生活や就学準備に課題を感じます。 2. 3歳までの家庭保育支援の提案 「3歳までは自分で育てたい」という家庭への支援は非常に有益です。瑞穂地区にも同様の要望があり、実施すれば助かる家庭が多いと考えます。	令和6年度 瑞穂保育園:0歳～2歳(混合クラス)3歳(単独クラス)4歳～5歳(混合クラス) 令和7年度の利用申込みは合計19人。(11/1現在18人在籍) R6.4月から、保育の必要な理由で「育児」に対する制限を1年から2年に緩和しています。
No.2	1. 支援事業の周知不足 飯山市の子育て支援事業が保護者に十分伝わっていないと感じます。内容や利用方法をわかりやすく、目につきやすい形で周知する必要があります。 2. 入園後の支援の継続 保育園・幼稚園入園前に利用できた支援が入園後に使えなくなること、頼る人がいない保護者が子育てに苦しさをを感じる場合があります。支援の継続や代替策を検討すべきです。 3. 5歳児健診の導入提案 3歳児健診以降、健診がなく相談の敷居が高い状況です。5歳児健診を導入し、「精神発達」「言語障害」「社会性」などを確認することで、入学に向けた支援をスムーズに進められる体制を検討してほしいです。	ホームページや子育て冊子「みんなで子育て」を5歳時未満全員と母子手帳交付時に配布しています。 現在、子育て支援センターは、保育園・幼稚園に入園すると使用できなくなるため、私立園の長期休暇中は使用ができません。ママサポートプログラムも1歳と年齢で区切られているため、1歳以降でも参加したい希望者が参加できません。 現在、飯山市では5才児健診の実施はなく、就学前に行う来入児検診のみとなっています。
No.3	1. 幼児教育の展望と保育園運営 出生率の減少を踏まえ、飯山市全体で幼稚園や私立保育園を含めた幼児教育の将来を早急に展望する必要があります。また、おむつの持ち帰りや給食費無償化といった育児負担軽減策も重要です。 一方、コロナ禍を経て行事の見直しが進む中で、保護者からは納得できないとの声もあり、保育園として丁寧な説明が必要です。特に、幼稚園や私立保育園では運動会などが以前の形に戻りつつあり、公立園はこの違いを子どもの発達や親が子育ての喜びを感じられる機会をどのように増やしていくかといった視点から再検討する必要があると考えます。 2. 充実した子育て支援とその重要性 飯山市は「きらら」や「ママサポ」などの支援で、安心して子育てできる環境が整っています。支援は費用だけでなく、人の関わりの重要性を伝えることが大切です。	コロナ禍後の行事の見直しについては、各園の規模や感染対策という理由で、人数制限している場合もある。周知方法は、各園でのおたよりやアプリ・メールの配信が主な方法です。 現在、子育て支援センターきららでは、遊び・交流の場以外にも子育て相談の場も提供しています。常駐の専任職員が相談指導から各種子育ての情報提供まで行っています。 ママサポートプログラムでは、保健師や保育士等のスタッフが、ポジティブな気持ちを持ち、育児が楽しいと思えるようなお手伝いをしています。
No.4	1. 子育て世代の座談会の提案 先日の話し合いは有意義でしたが、会議では話づらいことも多いようです。学校や保育園、地区単位でリラックスした雰囲気の座談会を開催してほしいです。 2. フリースクールの周知と支援 不登校の子どもが通えるフリースクールが必要と感じます。もし既に存在するのなら、困っている保護者に向けての周知が足りていません。「困った！」を解決できる仕組み作りを期待しています。	小学校や保育園では、それぞれ保護者会があり、市内4地区では、子育てサロンが開催されています。 飯山市内には、県が承認しているフリースクールはありませんが、教育支援センターがあります。 周知に関しては、個別に対応しているため、まず在籍している学校へ相談していただいています。
No.5	こども家庭庁では「こども政策DXの推進に向けた取組方針2024」を作成しました。飯山市でも、保護者や保育所などの負担軽減のためにDXを推進してはいかがでしょうか。	飯山市では、各公立園にWi-Fi環境を整備し、iPadを各1台装備しました。保護者へも小学校同様に連絡アプリ「すぐーる」を導入し緊急連絡等配信しています。